

## 教区シノダスの実施において踏まえておきたい事柄

### 1. 第Ⅱバチカン公会議

1963～1965 開催

①開かれた教会 ②交わりの教会 ③神の民

公会議前	公会議後
1. 秘跡中心: ・教会とは秘跡の場 ・救いは秘跡を通して ・司祭の役割は秘跡に あずからせること	1. 奉仕中心: ・教会は世に仕える所 ・秘跡は一層大事 ・世の福音化の推進役
2. 司祭中心の教会	2. 信徒中心の教会
3. 個人としての救い	3. 共同体としての救い
4. 聖体と信心中心	4. 聖体とみことば中心

### 2. 宣教観の変革

●従来の宣教観  
「福音宣教とは、キリストを知らない人々に教え、説教し、カトリック要理を説き、洗礼その他の秘跡を授けることと定義されていました。」(教皇パウロ六世・使徒的勧告「福音宣教」17項)

●現代の宣教観:福音化  
現代の「教会にとって福音宣教とは、ただ単に宣教の地理的領域を拡大して、より多くの人々に布教することだけではなく、神のみ言葉と救いのご計画にそむく人間の判断基準、価値観、関心のまと、思想傾向、観念の源、生活様式などに福音の力によって影響を及ぼし、それらをいわば転倒させることでもあります。」(同 19 項) (福音化された共同体→福音化する共同体)

### 3. アジアの教会の動き

1990年代アジアの教会のあり方:(1990 年第5回FABC総会で決定)

1. 交わりによる共同体
2. 参加する教会
3. 復活した主を証する教会
4. 預言する教会

具体化→AsIPAプログラム開発(1993)  
日本は何故取り組まないのか?  
→アジアシノダス(1998)で提示、教皇の承認を得る  
使徒的勧告「アジアにおける教会」1999 年発行

### 4. 日本の教会の動き

1981:教皇ヨハネ・パウロⅡ 世来日  
1984:日本の教会の基本方針と優先課題(司教団)  
1987:ナイスー1:開かれた教会づくり  
問題点:①信仰と生活の遊離  
②教会と社会の遊離  
→司教団声明:ともによるこびをもって  
1993:ナイスー2:家庭の現実から福音宣教のあり方を探る  
1999:西日本宣教司祭大会  
「新しい福音宣教—第三の千年期に向けて」

### 6. カトリック教会の現状

#### 6.1 浮かび上がった教会の現実

1. 極端な教会離れ
2. 信徒数の減少 (宣教が進まない)
3. 信仰のセンスの欠如の深刻化

#### 6.2 その原因は

1. 世俗化
2. 経済第一主義
3. 情報化(インターネット)
4. 成人信徒の信仰における未成熟 (福音化されているか)

#### 6.3 これまでの司牧活動で不足してきたもの

1. 聖書を読まない (マイバイブルなし)  
→霊的旅路の糧の栄養失調
2. 大人の信仰養成の不足 (これまでは希望者のみが受講)
3. 小共同体活動(班制度)の衰退  
実施している所も連絡と行事の相談のみ

### 7. 最近のバチカンの動き

バチカンの新しい組織(2010 年)  
新福音化推進評議会  
(福音宣教省→従来の福音宣教の分野)  
各国に新福音化委員会設立を指示→

1. 日本は 2013 年設立
2. 2017「新福音化の集い」実施

第13回シノダス(2012 年)→  
「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」  
(1)新福音化:新分野  
(2)再福音化:既受洗者  
使徒的勧告「福音の喜び」  
フランシスコ教皇 2013.11.23

### 5. 鹿児島教区の動き

1. 1969:教区司牧評議会発足
2. 1970:クルシリオ開催
3. 1972:カトリック研修センター設立  
キリスト共同体練成会開催
4. 1973:聖書に親しむ運動開始
5. 1976:教区財政正常化計画検討
6. 1982:小教区・教区司牧評議会の制度化
7. 1982:班制度スタート
8. 1984:信者倍増 10 力年計画(SBU)
9. 1985:宣教奉仕者養成コース開始
10. 1986:班長研修会開催
11. 1991:教区ビジョン制定(5 つの柱)
12. 2001:鹿児島地区評議会開催
13. 2003:信徒のための信仰生活指針

年	信徒数 (人)
1955	3933
1965	8558
1975	8656
1985	10160
1995	9016
2005	9285
2015	8971
2016	8927
2017	8813

### 8. 教区シノダスの実りを目指して

中野司教の司牧指針

1. 教会の三つの柱(集まり、交わり、派遣)を生きる
2. 今回のシノダスの目的  
「宣教司牧の基本理念とその方向性を確定する」

スケジュール

1. アンケート:9 月 15 日締め切り
2. 会議資料の作成
3. 会議:10 月 13～14 日
4. 司教の司牧指針の発表:年頭教書

留意点

1. どのような教区作りを目指すのか
2. 具体的な重点実施項目は何か
3. 具体化するための実行計画と実施
4. 大会で終わるのでなくスタート(これまでの反省)
5. 実施は、教区でなく小教区や各団体